

えひめの子供たちへのメッセージ

～いじめの「傍観者」にならない、いじめを見逃さない雰囲気づくりを～



愛媛県教育委員会教育長 田所 竜二

学校では、コロナ禍における学習や活動の制限が少しずつ緩和され、児童生徒の皆さんは本来の生活を取り戻しつつあります。友達との関わりが多くなる中、新たなうれしさや楽しさを感じながら、悩みや戸惑いなども生じているのではないのでしょうか。

愛媛県では、平成25年度から小中学生による「子ども会議」を開催し、その後、高校生や保護者、地域の方々と共に、いじめ問題の解決に向けた活動に取り組んできました。昨年度からは、その活動をより広げ、県内すべての小中学校をオンラインでつなぐ「えひめいじめSTOP!デイ」を始めました。今年度は、11月17日に開催した二斉ライブ授業に、約23,000人が参加し、いじめ問題の解決について考えを深めることができました。

今回のライブ授業では、「傍観者にならないために」をテーマに、演劇による問題提起やアンケート結果などを通して、自分はどうに行動すべきか、また、どのような学校をつくっていくべきかが熱心に議論され、児童生徒の皆さんの力強い眼差しに感銘を受けました。

「えひめいじめSTOP!デイ」は、いじめ問題を解決するためのひとつの通過点です。今後は、自分を見つめ、議論したことを実際に行動に移すことが大切になります。そして、その時の皆さんの温かい言葉やいじめをなくそうという勇気が大きな一歩につながっていきます。これからも互いを尊重し合う豊かな感性を育み、いじめを見逃さない雰囲気づくりに取り組んでほしいと願っています。

保護者や地域の皆様、子どもたちが安全で安心して過ごせるためには、いじめ問題を地域社会全体で考えていくことが必要です。大人として、子どもたちの思いや願いを受け止め、人権尊重の姿勢や行動を子どもたちに示すことが大切であると考えます。今後も子どもたちを見守り、支えていただきますようお願いいたします。

最後に、「えひめいじめSTOP!デイ」の開催にあたり、ご理解とご協力をいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

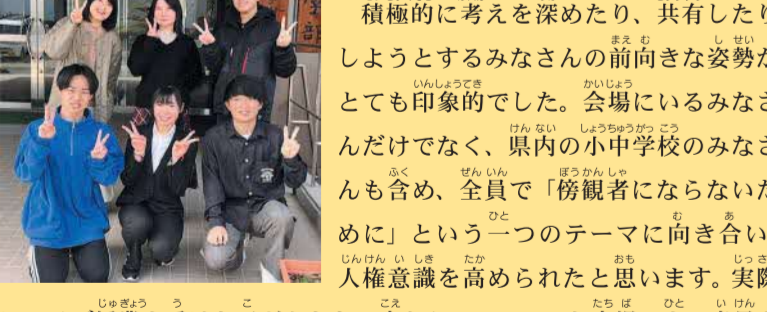
～ひとりで悩まないで～ いろいろな相談窓口を利用しよう

いじめ相談ダイヤル24
(24時間相談可・無料)
0120-0-78310

愛媛県総合教育センター
(月～金曜日 8:30～17:15)
(教育相談室) **089-963-3986**
(特別支援教育室) **089-909-7424**

愛媛大学教育学部の学生の皆さんから

～今年度も愛媛大学の学生が取材活動に取り組みました～



【ライブ授業を取材して】積極的に考えを深めたり、共有したりしようとするみなさんの前向きな姿勢がとても印象的でした。会場にいるみなさんだけでなく、県内の小中学校のみなさんも含め、全員で「傍観者にならないために」という一つのテーマに向かい合い、人権意識を高めたと思います。実際にライブ授業を受けた子どもたちの声から、いろいろな立場の人の意見を聞くことができたような機会は、いじめを通して人権について考えを深められるよい学びの場になるということを実感しました。また、人権学習の在り方について考えるよい機会となりました。

【私たちの考える「傍観者」について】

私たちは、ライブ授業に参加して、傍観者とは「いじめは悪いことだと分かっているけれど、解決のために一歩踏み出す勇気を出さないから、誰かに頼ってその解決をただ待っている人」だと考えました。いじめの加害者は、何もしない傍観者は自分たちの行動を肯定していると感じ、いじめをさらに加速させることから、傍観者は知らないうちにいじめを助長させていると気付きました。

将来は、子どもたちが相談しやすく、助けが求めやすいような教師になるために、日頃から関係が深まる関わり合いを続けていこうと話しました。

愛媛県教育委員会
人権教育課
2023年(令和5年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞



小中学生 約23,000人が参加

傍観者にならないために

ストップ 県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デイ 開催

令和4年11月17日(木)、今治市公会堂をメイン会場に、県内すべての市町をオンラインでつないだ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイ」が開かれました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、傍観者にならないためにはどうすればよいかについて話し合い、考えを深めました。今年度は、事前に行ったワークショップで、センター校のみなさんからの発言や気持ちをまとめて作られた演劇を鑑賞し、自分が同じような状況に置かれた場合に取る行動について話し合いました。メイン会場、リモート校ともに多様な意見が飛び交い、傍観者にならないためには、相手の気持ちをくみ取ろうとする姿勢が大切であるということを実感していました。授業後の感想やアンケートの結果からも、いじめ問題の解決に向けて、主体的に取り組んでいる様子伝わってきました。相手の気持ちを考える行動する人が増えることで、傍観者が減り、クラス全体、学校全体で温かい心の輪が生まれると素敵です。

ライブ授業前

ライブ授業の前に、センター校2校とリモート校4校で、劇を通して、相手のことを知り、相手の立場になってみたりする、ワークショップを行ったよ。

センター校



今治市立清水小学校 今治市立玉川中学校 東温市立川上小学校 砥部町立砥部中学校 大洲市立菅田小学校 愛南町立城辺中学校

リモート校



松山市立南中学校

409校 サテライト校

いじめをなくすためにそれぞれの学校で取り組んでいる内容を見直してから参加している学校もあったよ。

みんなの反応

ライブ授業前半

「天国のシロ」とはじめの一步、2つの劇を通して、傍観者にならないために、「気付く」「考える」「行動する」ことについて考えたよ。

天国のシロ



大事なバット「シロ」を失った主人公と友人たち…よつとした気持ちのすれ違いから、仲違いがはじまる…主人公は、姉が映画に誘ってくれたことをきっかけに、そのことを乗り越えていき…友人たちは、主人公が「シロ」を失ったことを理解して一歩を踏み出す…

はじめの一步



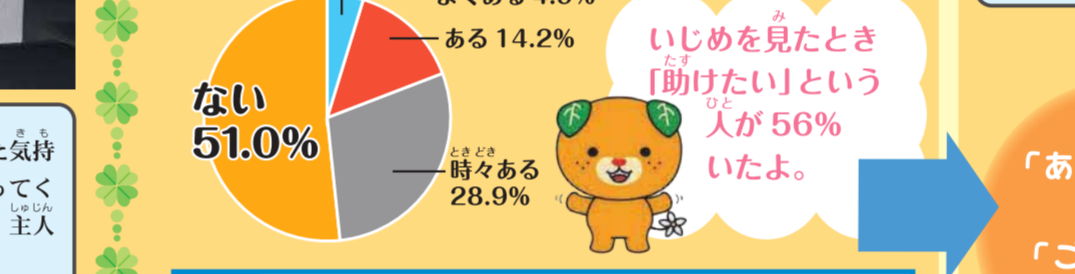
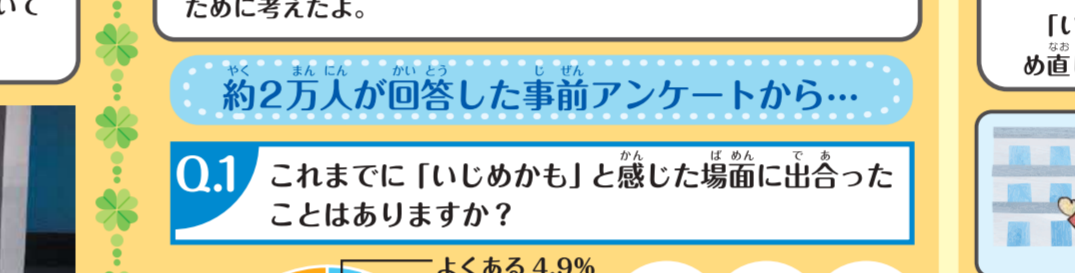
足首を骨折して松葉杖の主人公…友人たちの無関心な対応に歯が立たず、母親の真心に触れて、自分らしさを取り戻していき、友人たちとの関係にも変化が…互いが相手のことを思い合って、自分から声を掛けたり、話し合ったりすることで、自分の世界を変えていく…

劇を通して、「人それぞれ受け止め方が違うこと」「いつもと違う友達の様子に気付いたら、寄り添って行動すること」「自分から行動することで、世界が広がること」などについて話し合ったよ。

ライブ授業後半

事前にとったアンケートをもとに、みんなで傍観者にならないために考えたよ。

約2万人が回答した事前アンケートから…



いじめを見たとき「助けたい」という人が56%いたよ。

いじめを見たときに、「助けたい」という気持ちはあるけれど、「自分も同じようにいじめられるかもしれない心配だった」と考えている人が多いんだ。「傍観者」になっていることに、とても悩んでいるんだよ。いじめを見たときにどのようにすればいいのかな。「いじめSTOP!デイ」に参加して、みんなの考えはどのように変わっていったのかな。

参加した保護者の声

○みんなで助け合って楽しく幸せに過ごしてね。いじめかかと感じたら、早めに大人やまわりの人に相談してくださ。先生や親は、みんなの味方です。

○子どもと大人が、同じ問題について一緒に考え、共有できる時間があると大切だと思いました。

○もっと子どもの話を聞いて、深刻になる前に話し合える機会をつくっていきたいです。

大切なことは ぶりがえり と出来そうなことから やってみるコト!!

「いじめSTOP!デイ」に参加したからといって、いじめがなくなるわけじゃない。大切なことは、一人ひとりが自分の言動を振り返り、いじめをなくすために勇気をもって一歩踏み出すこと!

あなたは、傍観者になってない?? 今までの自分を振り返ってみましょう!

- いじめの現場を見たけど、その場から立ち去った
 - 友達がいじめられているのを知っていたけど、知らないふりをした
 - 悪ふざけの延長だと思ひ、まわりで見てはやしたたり、笑ったりした
 - SNSやオンラインゲームで、特定の人が嫌な思いをしているのに気付いたが、何もなかった
- ※傍観者にならないように、自分でできることを考えていきましょう!

来年度は南予から発信します!!

令和5年度は、南予の小中学校をセンター校として「えひめいじめSTOP!デイ」を開催します。

いじめの傍観者とは?

「いじめの現場を見た」「いじめじゃないか感じた」時に、加害者、被害者に対して、適切な対応をしなかったり、だれかに相談・報告しなかったり、そのまま放っておいたりした人のことを指します。いじめに出合った時に、見て見ぬふりをして適切な対応を取らないと、いじめをエスカレートさせ、解決が難しくなるため、まわりでいじめを見たり、気付いたりした人の対応がとても大切です。

加害者は軽い気持ち、被害者は誰にも言えないという関係のことが多く、周囲の手助け、思いやりが大切になってくるからね。

変えてくれる人は多くいるから「辛い」と打ち明ける勇気をもって欲しい!一人じゃない。

スペシャルゲスト コロコロキチキペッパーズのお二人から

小中学生の真剣な話し合いや、熱のこもった演劇を鑑賞し、笑いを交えながら悩んでいる子どもたちにエールを送られました。一歩踏み出して行動する大切さと難しさを考えながら、まわりの大人に頼ってほしいと熱く語られました。

西野創人さんは、「今、つらい時間を過ごしている人もいると思うが、相談とかでいい方向に変わる」とアドバイスされました。

ナダルさんは、「勉強は大切だが、どうしてもない時は逃げていい。抱え込みすぎず、無理しすぎずに生きていってほしい」と自分がいじめの被害者になった過去を振り返り、温かい言葉を送られました。

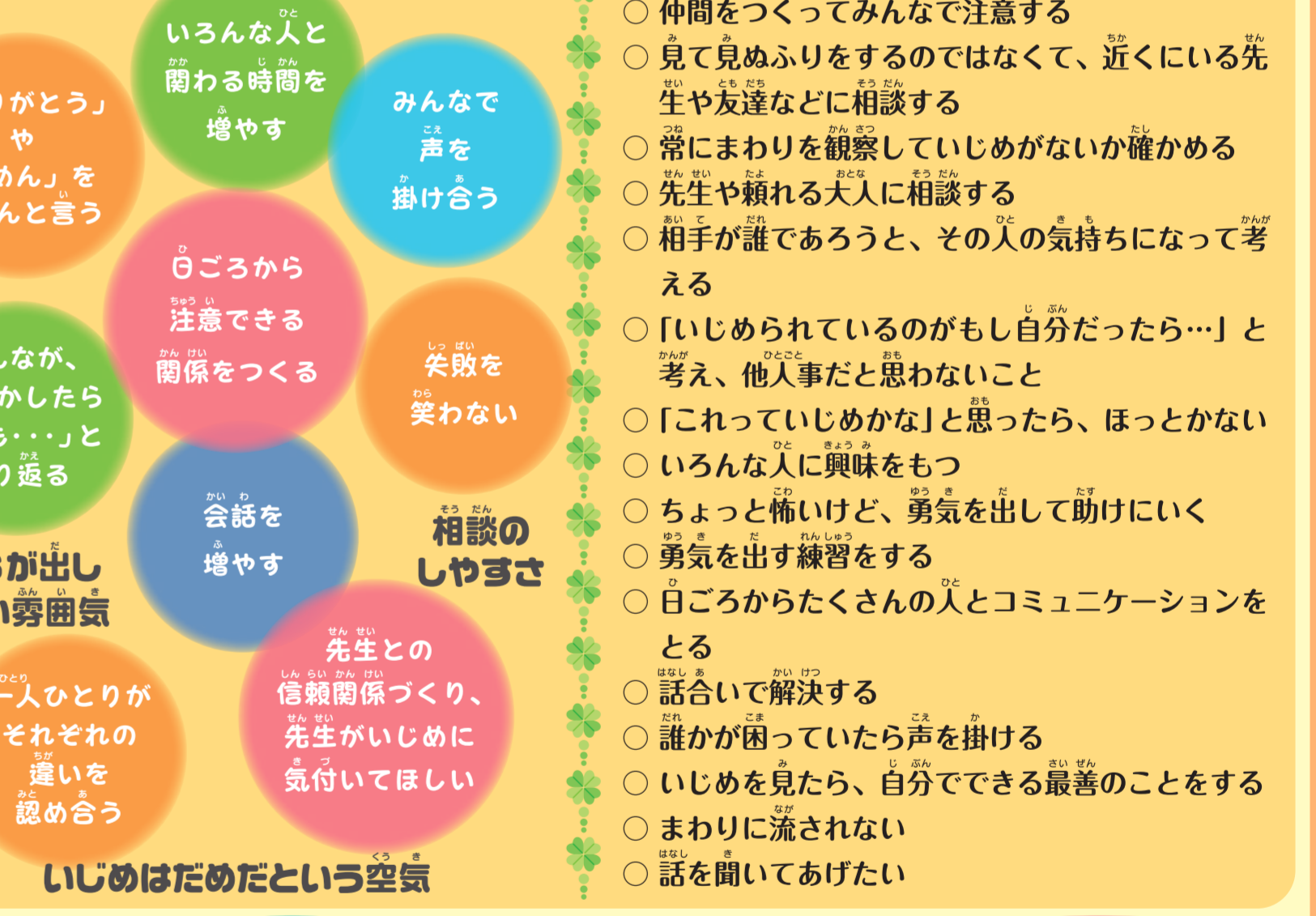
アドバイザーの西原勝則先生から

いじめの傍観者にならないために、「一呼吸置いてから仲間を信じて行動する勇気をもってほしい」とアドバイスされました。また、学校生活といった集団の場では一人ひとり違うため、同じテンションになれない子たちを追い出すような接し方をするのはなく、互いに笑顔で接し寄り添う雰囲気全体をつくってほしいとエールを送られました。

今、私たちにできること

「いじめSTOP!デイ」の後のアンケートでは、「とても参考になった」「参考になった」と答えた人が94.7%。自分の生活を見つめ直して、考えにも変化があらわれていたよ。

みんなが安心して楽しく過ごせる学校にするために大切なこと



いじめの起こりにくい学校にするために

- 相手の気持ちをしっかり考える
今年のいじめSTOP!デイでは、演劇の手法で「他人になりきる」経験を通して、「他者の思いに気付く」ことを取り入れました。加害者・被害者がどんな思いをしているのかということをしっかり考える必要がありますね。
- 環境を整える
学校生活の中で、「環境を整える」というのはとても大切なことです。「ダメだよ」と言える雰囲気、「ダメだよ」と言った人が守られる雰囲気をみんなでつくるのが大切です。
- いじめは命にかかわる重大な問題だと考える
全国のさまざまなところで、いじめにかかわる悲しい事件が起こり、テレビや新聞で取り上げられています。「このくらい大丈夫」という安易な考え方が大切な一人の命を奪ってしまうおそれがあることも考えておこうね!